

【朝鮮日報】

<http://www.chosunonline.com/article/20070825000019>

記事入力：2007/08/25 12:01:41

中国の炭鉱事故死者、日本の 250 倍(上)

中国で大規模な炭鉱事故が繰り返し起こっている。死者数が米国の 100 倍、日本の 250 倍にも達するだけに、中国の炭鉱操業の安全性に対する批判が相次いでいる。

中国で発生した炭鉱事故の件数と死者数は

▲2001 年=2384 件、6078 人

▲02 年=3112 件、6528 人

▲03 年=4143 件、6424 人

▲04 年=3853 件、6027 人

となっている。

一方、石炭生産量と死者数の相関関係を見ると、中国では石炭 100 万トン当たりの死亡率が 4%を上回り、米国(0.039%)の 102.6 倍、日本(0.009%)の実に 254.4 倍にも達する。インド(0.42%)、ロシア(0.34%)、南アフリカ共和国(0.13%)に比べてもはるかに高い。開発途上国の平均が 0.4%である点からみても、中国の炭鉱の安全レベルがどの程度なのか容易に推測できる。

しかし、状況はさらに深刻だ。実際の死者数は政府の統計値を大幅に上回るとされているが、中国政府は「不安感をあおる」という理由で、正確な死者数を公表していない。

05 年には、遼寧省阜新市で起きた炭鉱崩壊事故で 200 人余りが死亡したほか、甘肅省蘭州市の福山炭鉱で昨年起きたガス漏れ事故では 34 人が死亡した。

NEWSIS／朝鮮日報 JNS

<http://www.chosunonline.com/article/20070825000020>

記事入力：2007/08/25 12:02:07

中国の炭鉱事故死者、日本の 250 倍(下)

特に経済の急成長に伴い、炭鉱事故も急増しており、炭鉱の安全性に関する論議

が巻き起こっている。北京五輪を控え、イメージ改善を図りたい中国政府も、産業全体で安全性の向上を目指している。

中国の石炭産業は世界最大規模を誇るが、安全性と従業員に対する福祉は世界最低という汚名が定着している。じん肺症は中国で最もよく聞く職業病の1つだ。有害な粉じんを取り扱う作業に従事する人がかかりやすく、中国の職業病患者の上位を占めている。じん肺症にかかると、初期には胸が苦しく痛みを感じ、息切れやせきなどの症状が現れる。悪化すると睡眠時に横になるのがつらいほどの呼吸困難や痛みを伴い、最悪の場合には死に至ることもある。

中国の鉱山労働者の大部分は農民出身だ。農民の平均月収は600元(約9200円)だが、鉱山労働者の場合は同1000-2000元(約1万5400-3万8000円)の収入が保証される。相対的に高い賃金水準に魅力を感じ、危険を顧みずに多くの農民が鉱山に押し寄せている。

しかし、農民労働者は危険手当どころか賞与も受け取れず、社会保険も適用されない。こうした劣悪な労働環境が人権問題にまで発展する兆しも見せている。炭鉱事故がこれほど頻発するのは、業者が規定や安全を無視して、無理な採炭を強行しているためだ。また業者と地元政府、監督当局の裏取引も鉱山労働者の生命を脅かしている。安全性に対する指摘が増えれば増えるほど、賄賂と引き換えに許可書の発給を受けるケースが目立っており、違反事実を摘発しても知らないふりをして目をつぶる鉱山業者と関係当局の不正腐敗が目に見える。

こうした状況に対し、中国政府は不正腐敗に関与した者に厳罰を下す一方で、安全規定に違反した業者を拘束し、鉱山を閉鎖するなど、一罰百戒に乗り出したが、こうした措置が炭鉱事故の減少に役立つのかは依然として疑問視されている。